

農林水産大臣賞(地域振興部門)

上賀茂特産野菜研究会

～伝統ある京野菜の保存・継承と多角的販売戦略の選択～

代表者： 中島 健

所在地： 京都府京都市

構成員：京都市北区上賀茂地域の農家 22名

活動開始年月日： 平成元年

表彰理由

青年農業者を中心に「賀茂なす」「すぐき」などの京の伝統野菜の生産・販売。多様な販売方法を選択することで、多くの消費者、実需者に京野菜のおいしさ、食べ方等を広く伝えるなど、京野菜の振興に大きく貢献。

歴史ある販売形態である「振り売り」や、「賀茂なす」「すぐき」などの生産が若手農業者に継承されており、地域農業の維持・発展につながっている。

(注)「振り売り」とは、農家女性が「手ぬぐい」と「たちかけ(半纏)」をまとして、早朝に収穫した野菜を大八車やリヤカーに積み込んで市内中心部に売りに行く販売形態。現在は、軽トラックによる「振り売り」が主流。

市街化区域内で生産緑地指定を受けた農地を、市や地域の協力のもとに有効活用。

取組内容

1 地域農業の振興への貢献

- 上賀茂神社内において採種用の賀茂なす栽培を行うほか、京都三大祭りの一つ葵祭における賀茂なすの奉納、上賀茂神社で開催する野菜の即売会への出展を行うなど、神社と連携した活動を通じて京野菜をはじめとした地元野菜の振興に貢献。
- 京の伝統野菜の一つ「賀茂なす」の栽培を伝承するため、会員向けの勉強会を開催し、栽培技術の向上や安定出荷を目指して取り組む。また、市の補助事業を活用したパイプハウスの導入や研究会として共販に取り組み、賀茂なすの生産量・販売額が年々増加。
- 宅地化が進み営農環境が厳しくなる中、生産緑地となっている農地に、すぐきに賀茂なす、トマトなどを組み合わせ年2作の高度利用。また、大原など他地域への出作により規模拡大。
- 地元小学校の収穫体験や調理体験の講師を務めるほか、野菜の由来や美味しい食べ方等のホームページ掲載、イベントでのレシピ配布、組合員創作によるポスターの掲示などにより、多くの消費者に上賀茂の野菜の魅力を紹介。

2 伝統野菜の販路の拡大

- 農産物の販売は、原点である大八車やリヤカーによる「振り売り」から、軽トラックでの振り売り、会員直売所での販売、料亭との契約、漬物加工・漬物販売業者との契約等地元を重視した販売に加え、卸売市場への出荷へと展開。

3 農業の担い手・後継者育成

- 研究会の会員数は17名から22名に増えており、そのうち9名が担い手農家に認定。また、会員の約6割が20～30歳代と世代交代しており、農業の担い手及び後継者が育成されている。